

新型コロナウイルス感染症対応のお願い

東京教区主教

フランシスコ・ザビエル 高橋 宏幸

☆新型コロナウイルス感染症対応のお願い

2020年3月4日

＋ 主の平安をお祈り申し上げます

先般、2月26日に「新型コロナウイルス感染症対応へのお願い」を発信致しました。その中で、政府の「新型コロナウイルス感染症対策専門家会議」の2月24日付見解に基づき、少なくとも3月11日までは緊急議題や課題がある場合、業務を滞らせないために集まらざるを得ない場合を除き、委員会・研修会・その他の会合の開催を自粛の方向で検討されますようお願い致しました。しかしながら、依然として世界的に新型コロナウイルス感染が広まっており、未だ見えていない感染連鎖は日本中どこで起きていても不思議ではなく、対策を徹底することがさらに強く言われております。

常置委員会、教区事務所主事会議、教会グループ幹事教会牧師とも相談の上で、以下のことをお伝え致します。

教会や礼拝堂に人が集まることに因る感染や拡大のリスク以上に、東京という過度の人口密集度、接触頻度の高さなどに因る感染リスクの高さに加え、公共交通機関等の利用による人の移動が一層感染リスクや拡散リスクを高めるとの懸念は拭えません。また、これまでの文書ではマスク着用、アルコール消毒の励行を呼びかけましたが、それらが極めて購入、設置困難な現在、礼拝出席者を守る術も縮小しています。そこで、教役者や信徒の皆さまはじめ、人々の「命を守るために」を最優先とすること、教会の社会における責任を果たすことなどの観点から、

- 1 3月8日（大齋節第二主日）～29日（大齋節第五主日）まで礼拝（公禱）を休止する
- 2 葬儀に関しては、十分な感染予防対策の上で執り行う
- 3 第136（定期）教区会を延期する（別途、詳細をお送り致します）ことと致します。

それに伴い、諸会合に付きまして、前文書では3月11日を目途と記しましたが、更なる事態の深刻化ゆえに、引き続き一層の開催自粛の方向での対応をお願い致します。前回文書発信以降、今日まで、日本全国での感染者数は100人近い増加を見えています。苦渋の決断ではありますが、前述のように何よりも「命を守るために」ご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

なお、その間は、祈り書の「朝の礼拝」「朝の祈り」「聖書日課」などを用いて、神様との交わりの時、祈りの時を持たれることをお勧め致します。自宅で祈られることも命を守り合うことに通じます。また、祈りと信仰の営みを支えるために、聖アンデレ主教座聖堂ホームページを通して「自宅で行なう主

日礼拝」をはじめとして、情報の提供を計画してまいります。これまでにはない形でもありますが、共に祈り合うことによる連帯や信頼の中に主がおられることを強く信じます。

なお、今後の公的機関からの情報や推移を注目しながら、さらにメッセージを発信してまいります。重ねまして、皆さまのご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

尊い命を失った方々の魂の平安、感染した方々の回復と医療従事者のお働き、感染の収束を切にお祈り致します

【新型コロナウイルス感染症患者のため・医療看護に携わっている方がたのため】

「世の救い主よ、主は十字架の苦しみによってわたしたちを贖われました。どうか、わたしたち、ことにこの度の新型コロナウイルス感染症の苦しみ、不安の内にある人々を救い、癒しのみ手を差し伸べてください。また、医療と看護に携わる人びとの働きを助け導き、み力をもってその人びとを守り、励ましてください。主イエス・キリストによってお願いいたします アーメン」

【新型コロナウイルス感染症によって亡くなられた方々のため】

「永遠にいます全能の神よ、新型コロナウイルス感染症によって尊い命を失った方々の魂をすべての重荷から解放し、主の聖徒とともに永遠のみ国で安らかに憩わせてください。また、悲しみの中にある方がたに主の慰めが与えられますように、命の贖い主であられる主イエス・キリストによってお願いいたします アーメン」

「主よ、世を去った人びとの魂が、主の憐れみによって安らかに憩うことができますように アーメン」

☆新型コロナウイルス感染症対応のお願い

2020年2月26日

依然として世界的に新型コロナウイルス感染が広まっています中、現在、日本ではようやく人から人への感染連鎖が見え始めている段階であり、まだ見えていない感染連鎖は日本全国どこで起きていても不思議ではなく、対策を徹底することが必要と思われます。大規模イベントの中止などが全国で検討されていますが、それぞれにどのようなリスクがあるかの冷静な判断が求められます。リスクの高い会合とは、対面で互いに手を伸ばしたら届く距離での会話などが一定時間以上続くものと言われています。

現時点では未だ先が見えず、不安材料が多くある中、緊急議題や課題がある場合、業務を滞らせないためにどうしても集まらざるを得ない場合を除き、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の意見に基づき、当面少なくとも今後2週間（少なくとも3月11日まで）は委員会・研修会・その他の会合の開催を自粛の方向で検討されますようお願いいたします。

尚、既にお伝えしておりますが、

- 1 飛沫感染予防・ウイルス拡散を防ぐためマスクの着用、こまめな手洗いや握手による接触は避けるなどの心がけをお願いいたします
- 2 聖堂や会館等の入口に手指消毒用のアルコール設置をお願いいたします
- 3 体調不良の場合は、無理をせず聖餐式等、諸礼拝への参加自粛をお願いいたします
- 4 咳、発熱、呼吸困難の場合や、37度以上の発熱など風邪の症状がある時は当面の間、聖餐式等、諸礼拝への出席はお控え下さるようお願いいたします
- 5 教役者に体調不良や、発熱などが生じた場合には、聖餐式執行を自粛するようお願いいたします。なお、その際には「み言葉の礼拝」等、信徒の方がたによる礼拝を守られるようご考慮ください。その際には急なことであり、教話はなくても構いません

日頃の予防対策はもとより、体調不良や体力の低下を感じられる際、また長時間の交通機関使用の際には、この度の感染拡大に対して不安を感じていらっしゃる方々も含め、決して無理をされずに、時を同じくして自宅で祈られることも命を守り合うことに通じますので留意ください。

また、同感染症をめぐる、不確かな情報に基づいていたずらに不安を煽るようなことや、海外渡航者や他国籍の方がたへの偏見、差別が乗じることのないよう留意ください。

新型コロナウイルス感染症対策専門家会議等より以下のこと（抜粋）が発表されましたので以下に記載いたします。対応の際の参考にしてください。

- 1 国内の感染が急速に拡大しかねない状況にあり、これから1～2週間が急速な拡大に進むか、収束できるかの瀬戸際となる
- 2 風邪や発熱などの軽い症状が出た場合には外出をせず、自宅療養を勧める
- 3 今後とるべき対策の最大の目標は感染拡大のスピードを抑制し、可能な限り重症者の発生と死亡を減らすことである
- 4 症状のない人も、それぞれが一日の行動パターンを見直し、リモートワーク、オンライン会議などの

できうる限りの工夫を勧める

5 新型コロナウイルスは軽症者や症状のない人でも他の人に感染させる可能性があり、同ウイルスでは鼻風邪程度の症状であっても、決して外出や出勤をせずに自宅待機をしてもらう必要がある

6 感染者の家族など感染している可能性のある人についてもできるだけ自宅待機をしてもらうことが望ましい

7 これには寝込まなくてもすむような軽症の人も含まれるので、自宅で仕事をすることは可能である

また、教区事務局が所在する港区では、次のような基準が出されました

1 感染拡大のリスクを考慮し、

「不特定多数の人、特に高齢者が参加する会合」

「屋内で開催される会合」

「屋内の部屋の規模や換気の状態にもよるが、概ね 100 人が集まる会合」

上記三項目全てに該当するイベントについては、安全が確保できる時期に改めて実施する延期措置をとることを原則とし、やむを得ない場合は中止とする

2 上記基準に当てはまるイベントであっても、全参加者が 20 歳未満である場合は、新型コロナウイルス感染症の 20 歳未満の患者報告例が少ないことを踏まえ、イベントを実施することがある

3 上記基準に当てはまらない会合であっても、重症化リスクが高いとされる高齢者が換気の効かない場所に密集するなど、参加者や会場の状況等を考慮し、イベントを延期または中止することがある

4 予定どおり実施するイベントについては、次の感染防止対策を徹底する手指消毒剤を会場の入口やトイレ等に設置し、使用を呼びかける掲示を行うトイレのハンドドライヤー稼働を中止し、ペーパータオルとゴミ箱を配置

5 発熱など体調不良の方は参加を控える

引き続き、尊い命を失った方々の魂の平安、感染した方々の回復と医療従事者のお働き、感染の収束を切にお祈り致します

☆新型コロナウイルス感染症への対応について

2020年2月21日

先般、2月6日付で教書をお送りしましたが、その後も世界的に感染は衰えを見せることなく、感染された方がた、亡くなられた方がたの増加も報じられ、ますます警戒が強められています。学校に対しては感染防止のための休校や学年閉鎖が必要に応じて要請され、各種イベントやスポーツ種目の中止なども生じております。

同感染症をめぐり、不確かな情報に基づいていたずらに不安を煽るようなことや、海外渡航者や他国籍の方がたへの偏見、差別が乗じることのないよう心してください。

感染予防への備えは不特定多数の方が集まる教会に於きましても極めて重要なことですので、先日の「新型コロナウイルス感染症への注意喚起」に加え、再度以下のことを周知されたくお伝えし致しますので、当面の間よろしくお願ひ申し上げます。

つきましては、教会内外の人びとの健康を祈り、より良い行動をとられるようお願い申し上げます。

新型コロナウイルス（COVID-19）は、飛沫感染と接触感染が主な感染経路であることが判明していますので、

- 1 司式者や聖体に触れる方がたは、手を洗い除菌して清潔に保つこと
- 2 感染を避けるため、「平和の挨拶」では握手は避け、会釈に留めること
- 3 チャリスから複数が陪餐を受ける方法や、多くの陪餐者がチャリスに手を入れる形でのインテイクションは避け、補式者等がパテン／シボリウムを持ち、分餐者がパンにワインをわずかにつけて陪餐者の手に置くこと
- 4 分餐者が、陪餐者の手にあるパンを取りワインに浸すことも避けたほうがよいこと
- 5 陪餐者の口に分餐者が手を触れたり、近づけたりすることは避けたほうがよいこと
- 6 場合によっては、パンのみの分餐も可とすること

という形での励行と対応を当面の間お願ひ致します

今後も推移を見守りますが、行政から集会自粛要請があった場合はそれに従い、対応を定めてまいります

尊い命を失った方々の魂の平安、感染した方々の回復と医療従事者のお働き、感染の収束を切にお祈り致します

☆新型コロナウイルス感染症に伴う注意喚起

2020年2月6日

新型コロナウイルスによる感染症発生が報じられ、国内でも感染事例が公表されています。同感染症をめぐり、不確かな情報に基づいて、いたずらに不安をあおるようなことは避けなければなりません。つきましては、教会内外の人の健康を祈り、より良い行動をとられるよう、当面の間、以下のことを心に留めてくださるようお願い申し上げます。

- 1 飛沫感染予防・ウイルス拡散を防ぐためマスクの着用と、こまめな手洗いの心がけをお願いいたします
聖堂や会館等の入口に手指消毒用のアルコール設置をお願いいたします
- 2 体調不良の場合は、無理をせず聖餐式への参加自粛をお願いいたします
咳、発熱、呼吸困難の場合や、37度以上の発熱など、風邪の症状がある時は当面の間、聖餐式への出席はお控え下さるようお願いいたします
- 3 聖水盤のある教会では、使用を控えるようお願いいたします
- 4 聖餐式中のマスク着用は構いません また、聖書朗読者やアコライトなどの礼拝奉仕に携わる方がたも同様、マスク着用は構いません
- 5 司式者はじめ御聖体を扱う方がたは、聖餐式前に入念な手洗いをお願いいたします
- 6 日頃、インティンクシヨンの形を取られている際には、サーバーや信徒奉事者にパテンやシボリウムを持っていただくなどして、司式者（分餐者）が聖体をブドウ酒に浸して授ける方法をお取りください
但し、このケースが困難な際には、あるいは一種陪餐を希望される方が生じた際には、非常時ゆえに一種陪餐での対応もご考慮ください
- 7 教役者に体調不良や、発熱などが生じた場合には、聖餐式執行を自粛するようお願いいたします
なお、その際には「み言葉の礼拝」等、信徒の方がたによる礼拝を守られるようご考慮ください。
その際には急なことであり、教話はなくても構いません
- 8 「平和の挨拶」は、握手等は避け、会釈に留める等ご考慮ください
今後も推移を見守りますが、行政から集会自粛要請があった場合はそれに従い、対応を定めてまいります
尊い命を失った方々の魂の平安、感染した方々の回復と感染の収束を切に祈ります
(尚、この文書は、日本カトリック教会東京大司教区菊地功大主教が2020年1月31日に出されました「注意喚起」を参考に、日本聖公会の礼拝に適切な言葉遣いに書き換え、編集したものです)